

## ドイツ語（初級B） 第17回 形容詞

範囲：教科書 S. 39-41（CDトラック 54-57）

### 《今回の基本例文》

51. Wir trinken gern japanischen grünen Tee. (CD56-1)

私たちは日本の緑茶（を飲むの）が好きだ。

[形容詞の付加語的用法（強変化）]

52. Die ganze Welt bedauert den plötzlichen Tod dieses großen Künstlers. (CD54-3)

世界中がこの偉大な芸術家の突然の死を悼んでいる。

[形容詞の付加語的用法（弱変化）]

53. Dort steht ein junger Mann mit seiner hübschen Frau. (CD55-1)

若い男が一人、かわいらしい奥さんと一緒にあそこに立っている。

[形容詞の付加語的用法（混合変化）]

54. Er wohnt seit einem Jahr bei seinem Verwandten. (CD57-3)

彼は一年前から親戚の家に住んでいる。

[形容詞の名詞化]

## 教科書第10課 A. 形容詞 (S. 39)

### 〈ドイツ語の形容詞について〉 (補足)

◇ 教科書にもあるように、ドイツ語の形容詞には3つの用法がある。

・ **述語的用法**。sein, werden, bleiben, heißen, scheinen (vi. ～に見える) など、特定の自動詞の述語（述語内容語）となる。英語の補語（SVC構文のC）に対応する。すでに学習した。（⇒授業第9回補講）

・ **付加語的用法**。名詞の（基本的に）前に置いてその名詞を修飾する。用法としては英語と同じだが、名詞の性・数・格に合わせて変化する。この項で学習する。

・ **副詞的用法**。形容詞をそのまま副詞として使い、動詞を修飾する。英語とは異なる。すでに学習した。（⇒授業第9回補講）

\* 英語の場合、good に対する well、beautiful に対する beautifully など、各形容詞に対応する副詞形があり、形容詞をそのまま副詞としては使えなかった。ドイツ語は、その点が異なる。

### 教科書1 付加語としての形態と用法

◇ 形容詞の付加語的用法では、修飾する名詞に合わせた格変化が行われるが、その格変化は、名詞についている冠詞・冠詞類に応じて3種類が存在する。

- ・ c) 名詞が無冠詞の場合：強変化
- ・ a) 名詞に定冠詞・定冠詞類がついている場合：弱変化
- ・ b) 名詞に不定冠詞・不定冠詞類がついている場合：混合変化
  - \* 定冠詞類と不定冠詞類については、教科書 S. 19 の変化表を復習のこと。
  - \*\* 定冠詞と同じかたちが現れる変化を強変化、-en のかたちが現れる変化を弱変化、この二者が混ざった変化を混合変化と呼んでいる。男性弱変化名詞を学習した際に説明した通り。（⇒授業第6回配付資料1のS.3）

◇ 形容詞の変化表は、別に丸暗記する必要はない。形容詞の変化表の大本は定冠詞の変化表であり、これをベースに覚えていけばよい。

	男性	女性	中性	複数
1格	der	die	das	die
2格	des	der	des	der
3格	dem	der	dem	den
4格	den	die	das	die

これら定冠詞の語尾は、次に来る名詞の性数格に対する「マーキング機能」を持つ。

◇ 無冠詞の名詞にかかる形容詞は、定冠詞に代わってマーキング機能を果たさなければならぬ。このため、基本的に定冠詞と同じ語尾がつくことになる。これが**強変化**である。

	男性	女性	中性	複数
1格	-er ...	-e ...	-es ...	-e ...
2格	-en ... <b>(e)s</b>	-er ...	-en ... <b>(e)s</b>	-er ...
3格	-em ...	-er ...	-em ...	-en ...n
4格	-en ...	-e ...	-es ...	-e ...

定冠詞と異なる（表の網掛部分）のは以下の2点。ここだけ覚えればよい。

- ・ 男性2格、中性2格：-esではなく-en。
  - \* 男性2格や中性2格の場合、名詞自体に**-(e)s**がついており、そちらがマーキング機能を果たしているため。
- ・ 中性1格、中性4格：-asではなく-es。
  - \* 定冠詞類（dieser型）と同じ。

◇ 定冠詞（類）つきの名詞にかかる形容詞は、すでに定冠詞（類）がマーキング機能を果たしてくれるため、省エネ的な語尾（弱語尾）でよい。これが**弱変化**である。

	男性	女性	中性	複数
1格	der <b>-e ...</b>	die <b>-e ...</b>	das <b>-e ...</b>	die -en ...
2格	des -en ... <b>(e)s</b>	der -en ...	des -en ... <b>(e)s</b>	der -en ...
3格	dem -en ...	der -en ...	dem -en ...	den -en ...n
4格	den -en ...	die <b>-e ...</b>	das <b>-e ...</b>	die -en ...

弱変化の語尾は-eか-enだが、ほぼ-enなので、-eの部分（表の網掛部分）を覚えること。

◇ 不定冠詞（類）つきの名詞にかかる形容詞は、不定冠詞（類）がマーキング機能を果たしている限り弱語尾でよいが、不定冠詞（類）が無語尾であるところでは、自分でマーキング機能を果たさなければならず、そこだけ強変化の語尾がつく。これが**混合変化**である。

	男性	女性	中性	複数
1格	ein○ -er ...	eine -e ...	ein○ -es ...	meine -en ...
2格	eines -en ... (e)s	einer -en ...	eines -en ... (e)s	meines -en ...
3格	einem -en ...	einer -en ...	einem -en ...	meinen -en ...n
4格	einen -en ...	eine -e ...	ein○ -es ...	meine -en ...

不定冠詞（類）が無語尾であるところ（男性1格、中性1格、中性4格＝表の網掛部分）を覚えること。

\* 表では複数形の不定冠詞類は *mein* で例示してある。

◇ 形容詞の付加語的用法を学習したことで、本学のドイツ語名を書けるようになった。

（例） Naturwissenschaftliche Universität Tokio 東京理科大学

\* naturwissenschaftlich *adj.* 自然科学の

Ich studiere an der Naturwissenschaftlichen Universität Tokio.

私は東京理科大学に在学しています。

### 教科書 Übung 2 (S. 39、CDトラック 54)

2. *et<sup>3</sup> / zu et<sup>3</sup> passen* 〈3格〉に似あっている

### 教科書 Übung 5 (S. 40-41、CDトラック 56)

2. *wünschen* は他動詞で「〈3格〉に〈4格〉を望む」の意味。

### 教科書 2 形容詞の名詞化 (S. 41)

◇ 「**形容詞の名詞化**」という文法事項は英語にも存在する。英語の場合、*the* + 形容詞は、「～な人々（複数）」、「～なもの（単数）」を表す。

（例） *the poor* 貧しい人々（複数）

*the bad* 悪いもの＝欠点（単数）

◇ ドイツ語では、性と数によって、形容詞の名詞化の意味が異なってくる。

- ・男性：「～な男」
- ・女性：「～な女」
- ・複数：「～な人々」
- ・中性：「～なもの、～なこと」

◇ 形容詞の名詞化にあたっては、

- ・形容詞の語頭は大文字にする。
- ・形容詞の付加語用法と同じく、ついでに冠詞（類）に応じて3種類の格変化をする。

◇ 具体的には、Mann (*m.*), Frau (*f.*), Menschen (*pl.*), Ding (*n.*) などをいったん補い、それらを削除してから語頭を大文字にすると考えればよい。

- der ~~Kranke Mann~~, ein ~~Kranker Mann~~ 病気の男 (= 男性患者)
- die ~~Kranke Frau~~, eine ~~Kranke Frau~~ 病気の女 (= 女性患者)
- die ~~Kranken Menschen~~, ~~Kranke Menschen~~ 病気の人々 (= 複数の患者)
- das ~~Gute Ding~~, ein ~~Gutes Ding~~ よい物事 (= 善)

◇ 形容詞の名詞化の中性形は、etwas (英語の *something*) や nichts (英語の *nothing*) などの不定代名詞 (⇒ 授業第 9 回配付資料 S. 2) とともに使われることがある。**etwas+形容詞の名詞化、nichts+形容詞の名詞化**については、いずれも形容詞の前に冠詞がないと考え、その形容詞は強変化を行う。etwas+形容詞の名詞化は「なにか～なもの」、nichts+形容詞の名詞化は「いかなる～なもの...ではない」の意味になる。

(例) Unter der Sonne ist nichts Neues.

太陽の下に新しいものはない。

\* etwas/nichts+形容詞の 2 格は (一応) 存在し、etwas/nichts Schönen などになる。やはり強変化と同じ。

◇ 名詞のなかには、形容詞の名詞化としてのみ存在するものがある。

(例) (der) Bekannte 知人 (の男)

(der) Verwandte 親戚 (の男)

(der) Angestellte サラリーマン (の男)

(der) Beamte 公務員 (の男)

など。もちろん、冠詞と変化形によって女性形や複数形にもなりうる。

◇ 形容詞の名詞化としてのみ存在する名詞を辞書で調べる際は、男性単数 1 格形の弱変化形をそのまま引けばよい。(der) Bekannte の場合は Bekannte を調べる。「形容詞変化」などの注記が記載されているのが普通。各自の辞書で確認しておこう。

(例) Bekannte 男 女 《形容詞変化》 知人、知り合い

◇ 教科書 S. 41 の例文 Hast du heute Abend etwas Besonderes vor? で用いられている動詞は分離動詞の vor|haben で、「～を計画する」の意味の他動詞。

#### 連絡先など

教員のメールアドレス: [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>